

所沢市財政トークス

平成24年1月 第9号

「財政健全化指標でみる所沢市の財政状況」

所沢市財務部財政課発行

～財政健全化法の各指標でみる所沢市の財政状況～

平成19年6月に成立した地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)では、地方公共団体の財政状況を判断するために設けられた、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標(健全化判断比率)及び公営企業の資金不足比率の算定及び公表を義務付けています。

この法律に基づき、所沢市においても毎年算定及び公表を行なっておりますが、今回の所沢市財政トークスでは、平成22年度決算で算定された各指標をもとに、所沢市の財政状況をお知らせしたいと思います。



皆さんと一緒に勉強したいと思います。



所沢市イメージマスコット トコロん

★所沢市の財政状況のある2世帯住宅の家計に例えると・・・

所沢さん一家

一郎さん世帯・・・(一般会計等)



夫： 一郎さん
自営業



妻： 花子さん
自営業

息子の太郎さん世帯・・・(公営事業会計)



子： 太郎さん
会社員



子の妻： つばめさん
会社員

所沢市の財政状況のある家庭の1年間の家計に例えてみます。

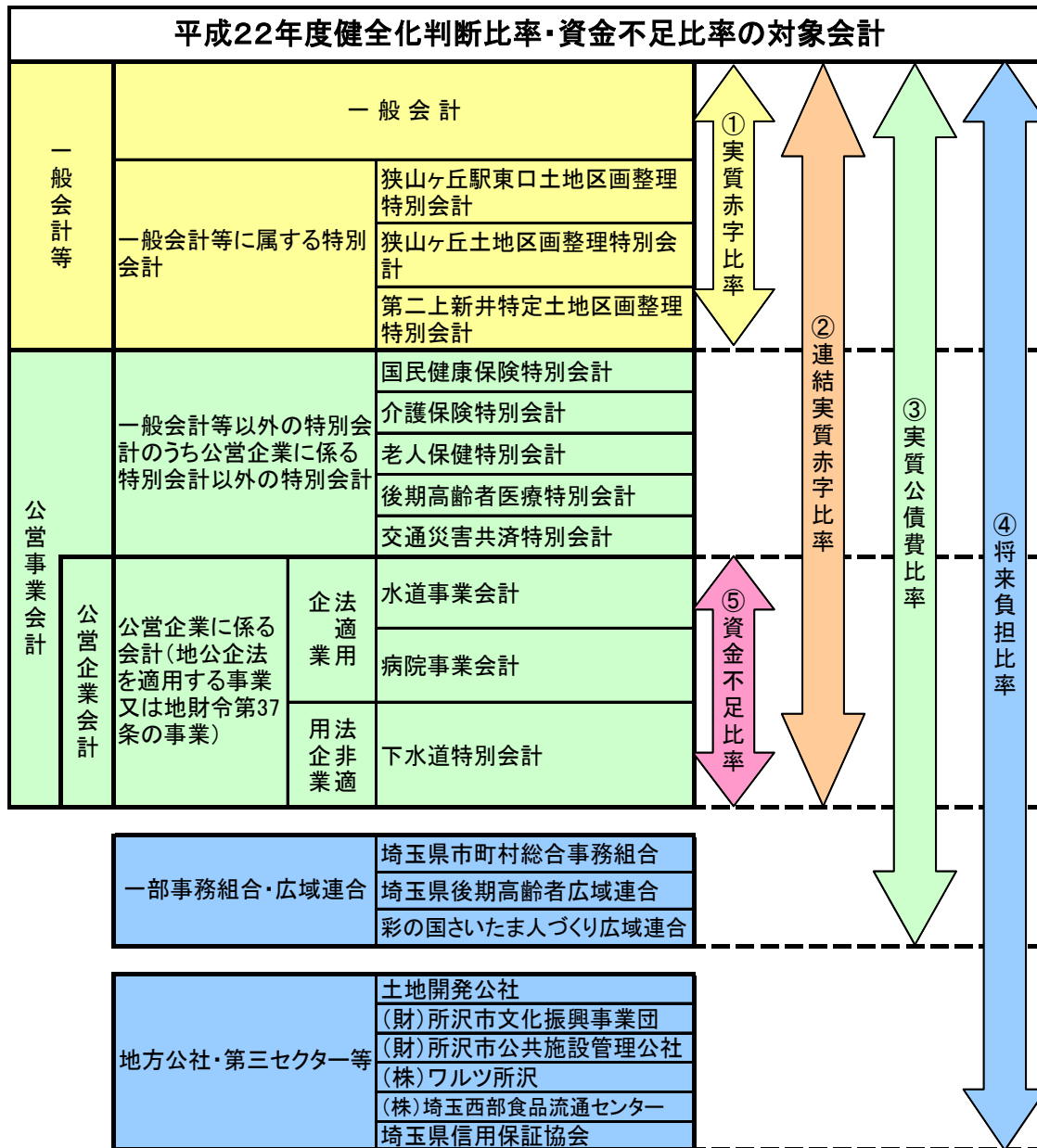
一般会計等は一郎さん世帯の家計、公営事業会計は一郎さんと同居する息子の太郎さん世帯の家計としました。

市の財政状況を一般家庭の家計に例えると多少の無理が生じますが、財政健全化法の各指標のイメージを掴んでいただけるように、ご紹介します。

健全化判断比率・資金不足比率の対象となる会計

はじめに、健全化判断比率・資金不足比率の対象となる所沢市の会計を整理すると以下のとおりとなります。

財政健全化法は、一般会計等のみならず特別会計や企業会計も併せた連結決算により地方公共団体全体の財政状況を明らかにしようとするものです。



所沢市広報マスコット ひばいちゃん

1 実質赤字比率

一般会計等の実質赤字額が標準財政規模（※）に比してどの程度かを示す比率です。

※ 標準財政規模・・・市税や地方交付税などの一般会計等の標準的な収入のことです。

実質赤字比率（平成22年度決算）

	所沢市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	11.25%	20.00%

★ 早期健全化基準・財政再生基準とは？

健全化判断比率の4つの指標が一つでも警戒水準を超えた場合に、イエローカード(早期健全化基準)で警告します。さらに悪化し危険水準に達した場合はレッドカード(財政再生基準)で国・県の関与のもと、確実な財政の建て直しに着手することになります。

家計に例えると

一郎さん世帯の年収に対して赤字がどのくらいの割合を占めるかになります。

平成22年度の一郎さん世帯は収入(自営業の収入等)に対して支出(食費・光熱費・貯金・ローン返済等)が下回ったため(黒字)「—」と表示されます。

これからも収入に応じて家計をやりくりしていかないとね！



2 連結実質赤字比率

一般会計等や公営事業会計を含めた市の全ての会計を合算した実質赤字額が標準財政規模に比してどの程度かを示す比率です。

連結実質赤字比率（平成22年度決算）

	所沢市	早期健全化基準	財政再生基準
連結実質赤字比率	—	16.25%	35.00%

家計に例えると

一郎さん世帯と太郎さん世帯を合わせた一家全体の年収に対して赤字がどのくらいの割合を占めるかになります。

一郎さん世帯が黒字であっても、太郎さん世帯が赤字で一家全体としてみると赤字となる場合もあることから、『連結』指標の存在は全体としての赤字額を把握するためにとっても大切なものです。

平成22年度は一郎さん世帯・太郎さん世帯ともに黒字だったため「—」と表示されます。

所沢市全体でも赤字はなかったんだね！



3 実質公債費比率

一般会計等が負担する公営企業拠出金を合わせた公債費(※)の標準財政規模に対する比率です。過去3年間の比率の平均値により算出します。

※公債費・・・道路や学校などの公共施設を建設するときの市債(借金)の返済のための元金及び利子のことです。

実質公債費比率 (平成22年度決算)

	所沢市	県内市町村平均	全国市区町村平均	早期健全化基準	財政再生基準
実質公債費比率	7.4%	8.2%	10.5%	25.0%	35.0%

家計に例えると

一郎さん世帯の年収に対してその年のローンの返済額がどのくらいの割合を占めるかになります。

この返済額には、一郎さん世帯の分に加え、太郎さん世帯のローンを肩代わりしている分なども含まれます。

この数値が大きいほど、ローンの返済に追われ家計のやりくりが厳しいということになります。

ローンの返済額の割合が大きいと、他の必要なことにお金を使えなくなってしまうね！



4 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき市債や債務負担行為などの実質的な負債額の標準財政規模に対する比率で、一般会計に加え公営企業、出資法人等を含めた実質的な負債額を把握するものです。実質的な負債額が一般会計等の標準的な収入の何年分に相当するかを示しています。

将来負担比率 (平成22年度決算)

	所沢市	県内市町村平均	全国市区町村平均	早期健全化基準	財政再生基準
将来負担比率	19.6%	61.0%	79.7%	350.0%	基準なし

家計に例えると

家や車のローン残高など、現在確定している将来支払わなければならない金額の合計から、その支払いのための預貯金を差し引いた金額が、一郎さん世帯の年収の何年分に相当するかを示したものです。

この金額には、一郎さん世帯の分に加え、太郎さん世帯のローンを肩代わりする見込みの分なども含まれます。

この数値が大きいほど、将来的に財政が圧迫される可能性が高いということになります。

良好な状態だね！！



将来ローンの返済などに追われて家計が苦しくならないように、今から計画的にやりくりをしていかないかね！



5 資金不足比率

公営企業の資金不足(赤字)額の事業規模(事業収入)に対する比率で、公営企業ごとの経営状況を示すものです。所沢市においては、水道事業会計、病院事業会計、下水道特別会計が対象となります。

資金不足比率(平成22年度決算)

	水道事業	病院事業	下水道事業	経営健全化基準
資金不足比率	—	—	—	20%

※ 経営健全化基準…早期健全化基準に相当するもので、公営企業の資金不足比率がこの基準を上回ると、経営健全化計画の策定が義務付けられます。

いずれの公営企業会計も資金不足は生じておらず、資金不足比率は算定されないため「—%」と表示しています。

★所沢市の財政状況を他市等と比較してみると・・・。

(平成22年度決算 健全化判断比率)

	標準財政規模(千円)	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
所沢市	55,324,595	—	—	7.4%	19.6%
川越市	58,003,776	—	—	8.3%	89.2%
川口市	83,523,229	—	—	9.7%	86.6%
越谷市	53,346,278	—	—	11.0%	103.6%
県内市町村平均				8.2%	61.0%
全国市区町村平均				10.5%	79.7%
早期健全化基準		11.25%	16.25%	25.0%	350.0%
財政再生基準		20.00%	35.00%	35.0%	

※北海道・大阪府・沖縄県内の市町村で早期健全化基準を上回る団体がありましたが、埼玉県内では該当する市町村はありませんでした。

結果発表



上記のとおり、所沢市の健全化判断比率は、すべて国が定めた基準をクリアしています。また、県内市町村平均、全国市区町村平均からみても良好な状態にあるといえます。しかしながら、近年は長引く景気の低迷による市税収入の減により自主財源は減少傾向にあります。一方、支出では福祉や医療などの経費が増加傾向にあり、市の財政状況は一層厳しさを増しております。このような状況のなかで、今後も限られた財源を効果的・効率的に活用し、将来にわたって安定的な財政を維持していくよう努めてまいります。